大項目	中項目	小項目
1. 公衆栄養の概念	A 公衆栄養の概念	a 公衆栄養の意義と目的
		b 生態系と食料・栄養
		c 保健・医療・福祉・介護システムと公衆栄養
		d コミュニティと公衆栄養活動
	B 公衆栄養活動の基本と展開過程	a 公衆栄養活動の歴史
		b 少子・高齢社会における健康増進
		c 疾病予防のための公衆栄養活動
		d ヘルスプロモーションのための公衆栄養活動
		e エンパワメントと公衆栄養活動
		f 住民参加
		g ソーシャル・キャピタルの醸成と活用
		h 持続可能性（サステナビリティ）を踏まえた公衆栄養活動
2. 健康・栄養問題の現状と課題	A 食事の変化	a エネルギー・栄養素摂取量
		b 食品群別摂取量
		c 料理・食事パターン
	B 食生活の変化	a 食行動
		b 食知識、食態度、食スキル
	C 食環境の変化	a 食品生産・流通
		b 食情報の提供
		c フードバランスシート（食料需給表）
		d 食料自給率
	D 諸外国の健康・栄養問題の現状と課題	a 先進諸国
		b 開発途上国
		c 地域間格差
3. 栄養政策	A わが国の公衆栄養活動	a 健康づくり施策と公衆栄養活動の役割
		b 公衆栄養活動と組織・人材育成
	B 公衆栄養関連法規	a 地域保健法
		b 健康増進法
		c 食育基本法
	C 管理栄養士・栄養士制度と職業倫理	a 栄養士法
		b 管理栄養士・栄養士の社会的役割
		c 管理栄養士・栄養士制度の沿革
		d 管理栄養士・栄養士養成制度
		e 職業倫理
	D 国民健康・栄養調査	a 調査の目的・沿革
		b 調査の内容・方法
	E 実施に関連する指針、ツール	a 食生活指針
		b 食事バランスガイド
	F 国の健康増進基本方針と地方計画	a 国の基本方針策定の目的・内容
		b 基本方針の推進と地方健康増進計画
		c 食育推進基本計画策定の目的・内容
		d 食育の推進と地方食育推進計画
	G 諸外国の健康・栄養政策	a 公衆栄養活動に関係する国際的な栄養行政組織
		b 公衆栄養関連計画
		c 食事摂取基準
		d 食生活指針、フードガイド
		e 栄養士養成制度
4. 栄養疫学	A 栄養疫学の概要	a 栄養疫学の役割
		b 公衆栄養活動への応用
	B 曝露情報としての食事摂取量	a 食物と栄養素
		b 食事摂取量の個人内変動と個人間変動
		c 日常的な食事摂取量
	C 食事摂取量の測定方法	a 24時間食事思い出し法と食事記録法；秤量法、目安量法
		b 食物摂取頻度調査法とその妥当性・再現性
		c 食事摂取量を反映する身体計測値・生化学的指標
	D 食事摂取量の評価方法	a 総エネルギー調整栄養素摂取量
		b データの処理と解析
5. 地域診断と公衆栄養マネジメント	A 公衆栄養マネジメント	a 地域診断
		b 公衆栄養マネジメントの考え方・重要性
		c 公衆栄養マネジメントの過程

大項目	中項目	小項目
	B 公衆栄養アセスメント	a 公衆栄養アセスメントの目的と方法
		b 食事摂取基準の地域集団への活用
		c 量的調査と質的調査の意義
		d 観察法と活用
		e 質問調査の方法と活用;質問紙法、インタビュー法
		f 既存資料活用の方法と留意点
		g 健康・栄養情報の収集と管理
	C 公衆栄養プログラムの目標設定	a 公衆栄養アセスメント結果からの状況把握
		b 改善課題の抽出
		c 課題設定の目的と相互の関連
		d 改善課題に基づく改善目標の設定
		e 目標設定の優先順位
	D 公衆栄養プログラムの計画、実施、評価	a 地域社会資源の把握と管理
		b 運営面・政策面のアセスメント
		c 計画策定
		d 住民参加
		e プログラムに関連する関係者・機関の役割
		f 評価の意義と方法
		g 評価の実際
6. 公衆栄養プログラムの展開	A 地域特性に対応したプログラムの展開	a 健康づくり
		b 食育
		c 在宅療養、介護支援
		d 地域包括ケアシステムの構築
		e 健康・食生活の危機管理と食支援
	B 食環境整備のためのプログラムの展開	a 食物・食情報へのアクセスと食環境整備
		b 栄養成分の表示の活用
		c 特別用途食品の活用
		d「健康な食事」の普及啓発
	C 地域集団の特性別プログラムの展開	a ライフステージ別;妊娠期・授乳期、新生児期・乳児期、成長期、成人期、高齢期
		b 生活習慣病ハイリスク集団